

## 小学生の授業放棄

私が小学生時代、男子より女子の人数が多かった。男子二十人、女子三十五人、どうした訳か面白い現象がある。小学校の時は各学年一クラスだが、私達のクラスは男がおとなしいが女子は活発で、むしろ男子は女子に苛められていた傾向があつた。一学年上と下はその反対で男子が暴れん坊が多く、女子はおとなしい。

一年生から六年まで、一年おき、交互に暴れん坊と柔らかな子供がいる。あの時代家庭には子供が多いが、母親は一年置きに子供を産む。五・六人は少ない方で、八人以上の家庭が多い。だから前述の現象が起きたのではないかと勘ぐる。

去年の同級会も農繁期が過ぎた秋に青根温泉で会合した。皆年老いて昔の面影は無いが達者で集まつた。相変わらず婆ちゃんは爺ちゃんの倍の人数である。その時、小学五年生時のエピソードを詳しく聞いた。

一年・二年は佐藤きみ、女の先生、三年・四年は菅井嘉蔵、男の先生、五年になつて夏休み迄の一学期も菅井先生に教わつたが二学期は、ニキロ以上離れた隣の小学校に転勤してしまつた。

二学期から別の男の先生に担任が代つた。菅井先生には、二年四ヶ月も教わっている、厳格な先生だったが、皆に慕われていた。

二学期からの男の先生には、なかなか馴染めない。私達男子はそ

れ程でも無かったが、女子は菅井先生が忘れられなく、ストライキを起こしてしまった。

女のボスは誰だったか、ハッキリ言わないが、女の殆どが授業放棄、子供の足で一時間もかかる同村の円田小学校に向った。途中で思い直し帰ったのは半数位、円田小学校に着いたのは十人位だったと言う。「私は行った、私は途中から帰った」等と大笑いになった。

菅井先生の教室の窓から、平沢小学校の教え子が一斉に顔を出すものだから先生が吃驚、窓に駆け寄り、何事かと聞いた。ボスが「先生に教わりたいから、この級に入れて下さい」と泣きながら哀願した。菅井先生は吃驚、教室を出て少し離れた桜の木の下に集め、懇々と「そういう事は出来ない」と諭され、しぶしぶ田舎道をトボトボと、来た道を逆戻り平沢小学校に帰った。

小学五年の女生徒が集団で授業放棄するという行為は、私がこの歳になっても聞いたことが無い。

菅井先生は私の家から一キロ位の若林区に今でも達者で居られる。年賀状のやり取りもしている。先生はこの事を覚えて居るだろうか。